心の栄養剤No126 【涙の輸血】

あるベトナムの村に宣教師たちの運営する孤児院がありましたが、爆撃を受けてしまいました。宣教師達と２人の子供達が即死し、その他の者も重傷を負いました。

重傷になったものたちの中でも８才の女の子は最も危ない状態でした。無線で助けを求めると、しばらくしてアメリカ海軍の医者と看護婦が到着しました。大量に出血したことにより危ない状態にあり、早く手当をしないと少女は命を落とすことになります。

輸血が必要でした。しかしどうやってそれを行うことができるというのでしょうか。言葉が通じないため、ジェスチャーを使って子供達を集め、何がおきていたのかを説明し、誰かが血液を提供することが必要であることを伝えようとしました。

沈黙の時間がしばらく続いた後、一本の細い腕が恐る恐るあがりました。ヘングという名の少年でした。急いで少年の準備をすると、苦しむ少女の隣に寝かせ、輸血ようの管をとりつけました。

少年は黙ったまま天井をじっと見つめていました。しばらくすると、少年は自由になっている手で顔を覆うと、しゃくりあげるように泣いているのでした。医師がどこか痛いのかと尋ねるとそうではないようでした。しかし、しばらくするとまた、しゃくりあげ、今度は大粒の涙をこぼしていました。

医師は気になり、再び尋ねましたが、またもや彼は否定しました。ときどきしゃくりあげていたのが、やがて静かに泣き出しました。明らかに何かが間違っているようでした。

すると別の村からベトナム人の看護婦が現れました。医師はその看護婦にヘングに何が起きたのか尋ねてくれるように頼みました。すると少年の苦しそうな表情はゆるみ、しばらくすると彼の顔は再び平静を取り戻しました。

すると看護婦はアメリカ人の医師達に説明しました。

「彼はもう自分が死ぬのかと思っていたんです。あなた達が説明したことを理解しておらず 少女を助けるため、全ての血液を提供しなければいけないと思ったようです。」

すると医師はベトナム人看護婦の助けを借り、少年にきいてみました。

「そうであればどうしてあなたは血液を提供しようと決心したんですか。」

すると少年は単純に応えました。

「あの子はぼくの友達なんです。」

「無償の愛」＝「見返りを求めない愛情！！」

「無償の愛」を持って接する対象が多ければ多い人ほど究極的な「幸せ」な人生を送れるという話を昔、聞いた事があります。

「無償の愛」と言うのは簡単だけど、実現させるのは物凄く難しく・・・

つい・・・「〇〇してやったのに!!」的な想い、言葉が出てしまいます。

今年もまだ始まったばかり、この少年の真っ白な清々しい行動を場面～場面で思い出しながら過ごす一年にしようと心より思います!!

「かけた情けは水に流し、受けた恩は石に刻む」